

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます。

## 幼児教育センター

# TAKARA 宝っこだより 17

平成 30 年 (2018 年) 11 月

空を見あげると、うす水色の空が一面に広がり、数か月前とは違った様子を見せてくれます。「季節のうつろい」を自然の姿から感じることでできる環境は、子どもにとって魅力あるものです。

さて、10月11日保幼小中合同研修会を開催しました。テーマは「心と体を育てる運動遊び～幼児期から児童期への接続～」でした。今回の研修では小学校からも多数参加があり、幼児期からの運動遊びの重要性と小学校での体育の授業との関連性について学ぶことができました。

昨今、生活が便利になると、子どもにとって歩くことをはじめとした体を動かす機会や家事のお手伝いなどの機会も減少します。講師からは、5歳児の歩数（9時から16時までの間）は、1980年から2000年にかけて右肩下がり、小学校以降、体育の得意な子どもは、3.4.5歳児の時によく遊び、運動をしてきた子どもであるというお話をお聞きしました。

幼児期は運動機能が急速に発達し、基本的な動きを身に付けやすい時期なので、幼児期の運動は大人が一方向的にさせるのではなく、子どもが自分たちの興味や関心をもって多様な動きが経験できるよう様々な遊びを取り入れることが大切です。

ある幼稚園や保育所では、忍者ごっこの遊びの中で、素早く動いたり、平均台を落ちないようにバランスをとって渡ったり、腕をいっぱい使って手裏剣を投げたり、また冒険ごっこの遊びでは、宝を探しもとめて、蜘蛛の巣くぐりやぐらぐら岩跳びなど、子どもたちは、「遊び込む」うちにバラエティあふれた動きを知らず知らずのうちに体験しています。遊びが楽しくなると体もよく動く！子どもの様子から実感します。各幼稚園・保育所(園)でもそのような楽しい遊びが秋の深まりとあいからまって繰り広げられていると思うと、こちらもわくわくします。

子どもの遊びには、たくさんの宝が埋もれています。だからこそ、私たちは、子どもの遊びが学びにあふれたものになるよう「環境の構成」と「援助」をしっかりと行う必要があるのだと強く思います。

さて、研修会当日、幼児教育センターの職員も研修会に参加し、運動遊びに挑戦しました。体の動きの鈍さと調整能力のなさにほとほとがっかりした私ですが、これは歳のせいだと言い訳をしながら、やはり体を動かす心地よさをそれなりに味わうことができました。

**健康な体と心は常に連動することを実感！**

もうすぐやってくる **11日**にはぜひぜひ、ほめほめシャワーをお願いします！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター TEL：0797-77-2132

